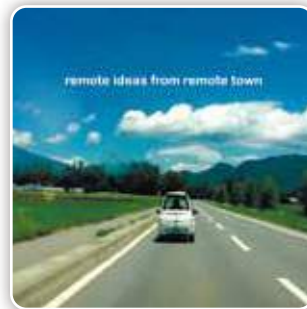


TEDxSaku JOURNAL

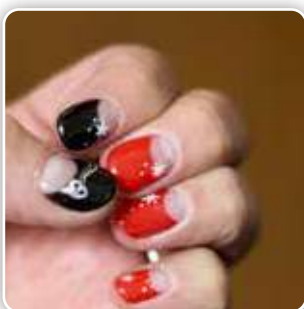
11/May/2014 at CosmoHall <http://www.tedx-saku.com/>



TED^x
Saku
x = independently
organized TED event



POWER
OF
COMMUNITY



high altitude
high spirit



Power of Community

今年の9月20日、あるイベントでTEDxSakuの話をするために、月明かりの下、不安な気持ちでとぼとぼ歩いていました。

満月でした。

一人ぼっちでした。

プレゼン中は足がガクガク笑って、手に冷や汗を握りました。

しかし結果として、多くの人を前に一人の人間として繋がりを作れた最初の日だったように思います。

「コミュニティ」という言葉は、ラテン語のコミュニタスを語源とし、元来、同じ価値観を持ち、平等な関係による社会共同体、という意味を持っています。

卒業してすぐお嫁に行って、「座光寺さんの奥さん」としての役割を務めていました。そして子どもが生まれると、「りんたろうくんのママ」。そのどちらも私にとっては大事な役割であり、それによって私は安心していただけの部分も多分ありますが、同時に社会の中で、「座光寺るい」として繋がることのできていない寂しさやつまらなさを感じていました。一人の社会的イキモノとして、いろんな人と繋がりたいと思っていました。

社会的役割に居座ることはとても簡単で、それを一度打ち破って、コミュニティの一員としてつながりを求めることは、最初とても勇気のいることだと思います。しかし、せつかく今佐久地域にある沢山の素敵につながりも、それぞれが社会的役割に基づいたつながりとして完結してしまっていたら、それはとても残念なことだと私は思います。

多くの人や既存のつながりが、コミュニティの一員として、より広く価値観を共有し、互いを尊重しあい、助け合い、時にぶつかることができたら。本来の意味に則ったコミュニティの場ができることで、新しい価値が創出され、多くの人の生き方は変わるでしょうし、見え方もより広いものになるでしょう。

地域の食材が詰まったクレープをかじるように、地域の力を感じられるTEDxSakuを味わって、「Power of Community」を感じてください。

あの満月の日が私にとって、コミュニティの一員となるスタートでした。みなさんにとって、TEDxSakuが、この地域における「コミュニティ」作りのスタートになればいいなと願っています。

TEDxSaku オーガナイザー 座光寺るい





梅本 真衣

MAIUMEMOTO
東京都立武蔵高等学校 1 年生



高地 清美

KIYOMIKOHCHI
食ママ倶楽部代表



座光寺 正裕

MASAHIROZAKOJI
夫 5 : 父 3 : 医師 2



ケム・ケムラ

KEMKHEMARA
25 歳、カンボジア人女性起業家



萩原 紀行

NORIYUKIHAGIWARA
天職 農家

東京都三鷹市出身。天文学者である父が野辺山宇宙電波観測所に転勤になり、5〜9歳を長野県の野辺山高原で過ごす。

両親の影響で読書が好きな彼女は、ジュール・ベルヌの「宇宙戦争」やホーキング博士の「宇宙への秘密の鍵」がお気に入り。父が与えてくれた「まんがで知ろう天文学」のお陰で楽しみながら天文学の基礎を学び、独自に宇宙語を開発して「宇宙新聞」を発行したり、山梨県立科学館での「星の語り部」という活動にも参加。

また4歳からピアノを習い、星座の観測をもとに作曲を行った経験もある。昨年はピアノ演奏コンテストで聴衆賞を受賞し、高校の吹奏楽部ではクラリネットを担当するなど、音楽活動にも熱心に取り組んでいる。

担当スタッフより

6年前に会った梅本真衣さんは、日本で一番標高の高い小学校に通う9才の小学生でした。

天文学者のお父さんが勤める国立天文台のある野辺山に暮らし、6才の妹、菜央さんと一緒に宇宙人に向けて新聞を発行していると聞き付け、自宅の勉強机を兼ねる編集デスクに取材に向かいました。

姉妹はそろって山梨県立科学館の星の語り部のメンバーで、真衣さんは独自に宇宙語を開発し、語り部たちの宇宙連詩は、なんとスペースシャトル・エンデバーに載せられ国際宇宙ステーションに届けられました。

TEDxSakuのスピーカーとして6年振りに会った真衣さんは、パッパに夢中の東京の中学三年生(現在、高校1年生)に成長していました。星空への想いは未だに強く、88個の星座をテーマに作曲をしたいので、プロデュースして欲しい!と再会の日に頼まれました。

宇宙人に向けて新聞を発行していた小学生は高校生になり、今度は宇宙の果てのまだ見ぬ仲間たちに、腕に磨きかけたピアノを通じて発信を企んでいるのです。

(澤文也)

31年前に長野県岡谷市から小諸市に嫁ぎ、夫、夫の両親、2人の子どもと暮らしている。

保育園の栄養士などを経て、2006年食育インストラクターとして独立。停車場ガーデンのカフェ主任や「こもろ雑穀プロジェクト」への参加を通じて、小諸のまちおこしに携わる。

2012年、「食育」「地産地消」「美味しく、楽しく食べる!」をコンセプトに「食ママ倶楽部」を設立。地域の農産物を利用した商品の開発・加工・販売や、安心・安全な手作り加工塾、雑穀料理の講習会など、伝統的な食文化を活かしつつ、若い世代も手軽に食べられる料理やお菓子を数多く広めている。粟パフと玄米パフをキャラメル風味で焼き上げた「ぶちサク」など、雑穀を利用したお菓子が特に好評。

「次の世代に信州東信地区の伝統食材や雑穀の素晴らしさを伝達し、その子どもにも『食』を見直すきっかけになれば」と、地元若き母親達と共に活動を続けている。

「食ママ倶楽部」

<http://shokumamaclub.naganoblog.jp/>

担当スタッフより

友人のところで、中込商店会の講師同士ということで、Facebook に関してのアドバイスを尋ねられたのが、知り合ったきっかけです。

ちょうどそのころ糖質制限食のことを調べていて、あまりに日本では正規な文献がなく困っていました。米国に行った時に、ブロックバスター(ビデオ屋)の小さい本売り場でさえ何冊かのカーボコントロールの本があり、結局それを購入。彼我の情報の差を大きく感じました。

高地さんのやっている事(食ママ倶楽部)や経歴を聞いて「しめしめ」とほくそ笑んだ記憶があります(笑)。正しい知識エビデンスに基づいた食事のプレゼンに関しては、私が独り占めしたいです。

(由井賢)

1983年長野県生まれ、佐久在住歴11年。TEDxSaku オーガナイザー・座光寺のいの尻に敷かれ、3歳と2歳の怪獣たちと戦う毎日。九州大学医学部卒、佐久総合病院・総合診療科医師(地域医療、HIV診療)。

佐久長聖中学校を卒業後、15歳でギャップイヤーを取りアジア各地を放浪した経験から、国際保健の道を志した。タイのマヒドン大学で公衆衛生を学び、帰国後2013年4月に院内の20人余りの仲間と国際保健委員会を立ち上げ、「だれでも気軽に国際保健に貢献できるプラットフォーム」を合い言葉に、病院をやめずに国際協力に参加できる「現職参加制度」の新設を実現した。

2013年11月の台風でフィリピン大学医学部のレイテ分校が全壊した際には、発災5日後に「レイテ分校友の会」を組織し、全国から寄せられた450万円の支援金で分校の早期再開を後押しした。今後は人の交流を通じて、健康長寿の「長野モデル」を佐久から世界のへき地に届けるのが夢。

<http://www.zakoji.org/>

担当スタッフより

私は座光寺正裕さんの職場の同僚であり、普段は院内の国際保健委員会という組織で、セミナー主催や学会発表など、様々な活動に共に取り組んでいます。

座光寺さんがオーディションでプレゼンされる様子を、私は審査員席で見ました。職場の同僚であるため、フェアな審査のためにも私は質疑応答の際、発言しないことを事前に決めておりました。外部審査員の反応こそが彼のプレゼンに対するフェアな評価であると考えたからです。

外部審査員には鋭く斬りかかるタイプの毒舌審査員がいました。しかしその彼が、座光寺さんのプレゼンが終わるなり「素晴らしいです!自分も協力したいです!」と、シャウトしたのです。私も密かに同じようにシャウトしたい気持ちでしたから、本当に感動しました。

審査員を絶賛させた彼のプレゼンの魅力は何であったのでしょうか。座光寺さんは中学生のときに世界を放浪した際、医師になること、そして国際保健への貢献を志したそうです。人生にテーマを持っていること。これは1つのポイントだと思います。そしてそのテーマと実際の行動を一致させることができ初めて、人は納得し、感動するのではないのでしょうか。

私も観客の1人として、座光寺さんのプレゼンを楽しみにしております。皆様もどうぞお楽しみに。

(平田知之)

幼い頃から日本語を勉強し、首都プノンペン大学在学中に日本へ留学した経験を持つ。その後働きながら卒業し、日系の病院で働くために2011年3月7日に日本を再訪。しかし、東日本大震災で死の恐怖を味わったことをきっかけに、祖国に貢献することを決意し帰国した。

経済的にも社会的にも弱い立場にあるカンボジアの女性に、スキルを身につけ、働くことで、自信と誇りを持って生きていって欲しいという想いから、2011年8月にカンボジアの首都プノンペンにネイルサロンを開業した。

2013年には美容学校も設立。顧客もカンボジア人富裕層と外国人が半々だという珍しいサロンとして、話題を集めている。

幼い頃から日本に憧れ、抱いていた「カンボジアの発展に貢献したい」という想いを胸に、今後は「日本とカンボジアの架け橋になりたい」という夢を抱く。

Bi SALON

<https://www.facebook.com/bisalon2011?fref=ts>

担当スタッフより

私は、女性として、母親としてどう生きるのがよいのか模索していて、そのヒントになるようなアイデアと出会いたいと思いながらTEDxSaku を始めたように思います。同時に女性ということに過度に意識したかんだ考え方には違和感を感じていました。

25歳という若さで、故郷カンボジアにネイルサロンをオープンし、カンボジアの女性が自信と誇りを持って生きられる社会を目指しているケムラさん。

初めて彼女とスカイプでお話したとき、2時間の通話で、ポジティブで前向きな彼女のパワーにとても元気をもらったのを覚えています。やりとりを重ねるうちに、彼女の根幹にある思いや体験、ゆるぎない意志、そういうものが見えてきて、どんどん魅了されていきました。

彼女の想いは、必ずしも女性に限定したものではありませんということがわかってきました。今、カンボジアの人たちが、もしくは日本の、佐久の人たちが、本当に自分の生き方に自信を持って、胸を張って生きているのかどうか?という、とても大きなテーマを投げかけてくる彼女のトークは、きつといるいるな迷いや小さな悩みを吹き飛ばして、その瞬間から聞く人たちの人生の見え方を変える力があると感じています。

(座光寺のい)

1971年千葉県松戸市生まれ。大東文化大学経済学部卒業後、東洋エクステリア(現リクシル)に営業職として3年間勤務。園芸療法への関心をきっかけに、農業の魅力にとりつかれる。

埼玉県小川町の子美登氏宅に1年間住み込み、有機農法を学ぶ。26歳で、八千穂村(現佐久穂町)にて「のらくら農場」を開始。

現在は、4haの農場で年間約60種類の作物を栽培し、旬の野菜を詰め合わせた「小さな畑セット」の宅配や、飲食店、こだわりの八百屋などへの出荷を行っている。

また、小さな農産加工所を作り、無添加の漬物やバーニャカウダソースなども製造、販売。全国にのらくらファンを増やしている。

カラダもココロも元気になる美味しさをたくさんの人に届けるべく、のらりくらり、野良の暮らして今日も笑顔で楽しく畑を耕している。妻と3人の子どもの5人暮らし。

<http://www.norakuranoujyou.com/>

担当スタッフより

「萩原さんは野菜のお医者さん」。栄養価が高く、子供に安心して食べさせられる野菜を作るため、野菜がどうして欲しいのか、何を欲しいのか?時には畑に這いつくばったりもして野菜を総合的に診断する!

「成功しても反省する人」。どんなに野菜作りに成功しても、決して奢らず、留まらず、栽培に対する探求心は尽きることがない。まるで研究者のように深く掘り下げて追っていくその知性と情熱が周りの人を魅了してしまう!己に常に厳しく、万人には深く優しい。苦勞と責任は買ってでも背負い、さらには登山までしようとするタイプ(笑)

「失敗しても肥やしにする人」。試験管が爆発するような挑戦をして失敗する。けれど、何だか楽しそうな萩原さん。そして、失敗の数だけ愛らしい野菜達。なんとなく、無意識に萩原さんに魅了される理由、萩原さんの野菜達をなんとなく選んでしまう理由は、そんな萩原さんがみんな好きだから。

プチ情報。萩原さんは眼鏡をとると韓流スターに似ていてかっこいい。夏場は日焼けして精悍な面持ちになり、さらにかっこいい!本人はギャグ漫画の主人公に似ていると言っていますが(笑)。それと、ちよびり猫背でかわいい背中にも注目!

農業が大好き!天職を全うする男の凸凹物語。乞うご期待!(浅見満)

Introducing Speakers

Noriyuki Hagiwara

Kem Khemara

Masahiro Zakoji

Kiyomi Kohchi

Mai Umemoto

Yasushi Ogawa

Yusuke Tanaka

Go Yoshiwara

Tomoyuki Ote

Takashi Yamada

Hideki Nagaoka





長岡 秀貴

HIDEKINAGAOKA

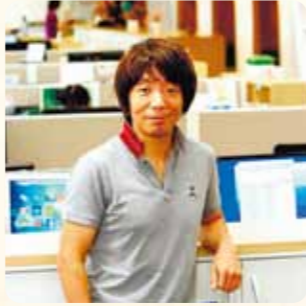
NPO 法人 待学園 スクオーラ・今人理事長



山田 崇

TAKASHIYAMADA

長野県塩尻市職員



大手 智之

TOMOYUKIOTE

アソビズム代表取締役



吉原 ゴウ

GOYOSHIWARA

株式会社 LIG 代表取締役副社長



田中 佑典

YUSUKETANAKA

総務省職員・現長野県庁勤務



小川 康

YASUSHIOGAWA

探薬師 (さいやくし)、薬剤師、チベット医

長野県上田市在住。40歳。
高校時代、左半身麻痺になるも奇跡的に回復。
その経験から命に向き合い、人生観が大きく変わる。

上田西高校の教師を5年間務めるも、「公教育で見放されがちな、生き辛さに苦しむ若者たちに手を差し伸べたい」と、自分の学校を作るために退職。2003年に教え子たちと設立したHIDBOOKS から出版した自叙伝「脱・教師 ダッセン」が大きな反響を呼ぶ。

2004年に「NPO法人待学園スクオーラ・今人」を設立し、理事長に就任。生きる力を共に育む「共育」という理念が多く賛同者を集め、公教育とは違う道を認められる学校「オルタナティブ (代替的な) スクール」という教育カテゴリーを確立した。

2008年には厚生労働省の「地域若者サポートステーション事業」を受託。

現在も執筆活動や講演会を行い、新しい生き方のモデル・新しい共育のモデルを訴え続けている。

NPO 法人 待学園 スクオーラ・今人

<http://www.samugaku.com>

担当スタッフより

長岡さんに初めてお会いしたのは2年前の秋。上田市の待学園スクオーラ・今人の学園祭を友人と一緒に訪れた時でした。その時は、東京から仕事でスクオーラ・今人の取材の為に来ていた友人にこっぴどく名刺交換をただけだったのですが、長岡さんの気さくな雰囲気と握手をした時の力強い手が印象的でした。

その後自分のラジオ番組の中でスタッフの方への取材が実現する中で、いつかは長岡さんご本人にお話を聞いてみたい!と思っていたのですが、今回 TEDxSaku のスピーカーとして登壇していただく事になり、私の願いがやっと実現したのでした。

待学園だけでなく多岐にわたるお仕事の中で常に「命」と全力で向き合っている感じがしますが、長岡さんと喋っていると何でも乗り越えられるような、自分の力を信じられるようになるんです。

私は打合せの帰りの車でいつも「よいし、私もやるぞ〜!」と元気をいただいています (笑)。

打合せにて TEDxSaku スタッフからの、ご自身のモチベーションは?との問いに「人の幸せに関わる部分に触れていたいんだよ」とおっしゃっていた長岡さん。当日はどんなメッセージとパワーを送ってくださるのでしょうか。皆さんも楽しみにしてくださいね。
(石和ゆり)

1975年塩尻市生まれ。千葉大学工学部応用化学科卒業。長野県塩尻市職員 (現在は塩尻商工会議所に出向中)。

「地域の課題を想像で捉えるのではなく、実際に住んでみると商店街の現状・課題はわからない」と、地元塩尻の「大門商店街」に空き家を借りて住み、降りてしまったシャッターを毎朝開ける。そんな空き家/空き店舗を活用した「空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクト nanodaj」を2012年より開始。

「目の前のひとりを救えない人に、みんなは救えない。」と、目の前の人を助けようとしてローカルな視点で町おこしに取り組む。

「公務員が元気なら、地域は絶対元気になる」と、その熱に巻き込まれたメンバーと共に、nanodaを拠点に多様な活動を実施。人と人、人と地域をつなげる。

2014年、『地域に飛び出す公務員アワード2013』大賞を受賞。動き、結果を残しまくりに、いま注目を集める市職員。公務員っぽくない公務員。

空き家プロジェクト nanoda

<http://www.shiojiring.jp>

担当スタッフより

私たちは、山田さんのお誘いを断ったことがありません、断りません。なぜなら、間違いなく、必ずいつもオモシロいから。「コミュニティー」・“地域”がTEDxSakuのキーワードだと聞いたとき、私たちの中では大本命 山田崇さん一択でした。

つかまえられそうで、つかまえられない。山田さんは、いつ見てもとても軽やかです。動きの鈍った場を、弱くなっているつながりを、その軽やかさでつなげていきます。いつも人に目が向いているところが、いつも目の前のひとりだけに興味があるところが、人と人をつなげる鍵のようです。

そして、山田さんは、いつでも誰よりも自分が楽しみたいという欲がすごいです。自分が楽しめる場をつくりたい——つまるところ、人と人がつながる場をつくるのは、自分が楽しみたいから。そこで仲間を作りたいからのようです。山田さんは、寂しがりやです、きっと。場づくりは、寂しさ解消の手段のようです。

こんな山田さんですが、私たちは、山田さんのことが、わかりそうで、わからない。でも、わからなさそうで、わかる。つまり、もう私たちは山田さんという人に惹かれてしまってるんです。
※ これは、決してラブレターではありません。
(有路憲一、小向佳乃)

1974年、群馬県高崎市生まれ。
8歳の時に父親のパソコンでプログラミングと出会い、兄弟・友人が喜ぶのが嬉しくてゲーム作りへのめり込む。

2002年、勤めていたゲーム会社から独立し、株式会社アソビズムを設立。現在65名の従業員とともにゲームの企画・開発等を行っている。

秋葉原にある本社オフィスは「第25回日経ニューオフィス推進賞」を受賞。設立当初から新しいワークスタイルを模索している。

2012年、娘の幼稚園選びを機に長野への移住を決意。翌年2013年に長野支社、愛称「長野プランチ」を設立した。

現在のオフィスは長野駅近郊にある古い旅館をリノベーションしたもの。将来的には自然豊かな北信州へ移転し、子どもの教育と仕事が両立できる環境を作ることを目指している。

また、長野プランチ2階の和室で「未来工作ゼミ」を開催。子どもたちに、ゲーム作りを通して ICTを教えたり、ロボット工作と一緒にを行うなどして、「大自然の中で心を開き、自分で考え、楽しみ、生きる力を育てる」ことにも取り組んでいる。

株式会社アソビズム

<http://www.asobism.co.jp>

担当スタッフより

日本中を熱狂させるゲーム会社である「アソビズム」の代表である大手智之さんは、2014年、新しく長野プランチプロジェクトとして、善光寺の膝下に新たな活動拠点を構えました。

田舎にあって、都会にないもの、東京での生活をシフトし信州での生活を送ることの意味とは?ソーシャル化した世界にふさわしい教育や価値観とは?

将来、長野の森の中にクリエイターが集うオフィスを作りたいという構想をお持ちの大手さんは、今まで東京にも信州にも無かった未来と教育を語られます。そして、そのアイデアの根底には常に家族への深い愛情があります。

遊びのプロフェッショナルである大手さんが語る未来は、私たちをどこまでも興奮させてくれます。TEDxSaku でのお話をご期待ください。

(飯島健)



1982年、長野県信濃町生まれ
中学校を卒業後、人間の生活の根源である農業に興味を持ち静岡県の実業農家に弟子入りし1年間農業を学ぶ。

その後、17歳で料理人を目指し料理を学ぶも続かず、実家のアウトドアスクールにてカヤックインストラクターとして活動を始めるも3年で挫折。その後、職を転々とし雀荘、ショップ店員などを経験。

マレーシアのボルネオ島でのラフティングガイドを経て、23歳にして(ようやく)ウェブデザイナーとして就職。

2007年、サラリーマン生活に限界を感じ転職を決意するも、転職先候補の企業全てに断られ、仕方なく株式会社アストロデオを創業。

その後、株式会社LIGと合併。称号をLIGに統一し、代表取締役副社長に就任。ウェブマーケティング戦略を担当し、プログメディアの運営、企画立案などに携わる。

2013年12月、LIGの子会社として株式会社TRIPを創業。誰もが簡単に観光商品、体験商品、売れる事が出来るウェブマーケティング、TRIPを開発。観光という面から地域経済の発展に貢献する事を目指している。

多趣味、飽き性。
アウトドア、カメラ、ギター、温泉巡り、焼き火、料理、旅行、お酒、筋トレ、建築、空間づくり、面白ブログ、アートなど色々興味はあるけれど、どれも一流になれず。

株式会社LIG <http://liginc.co.jp/>

株式会社TRIP <https://trip-u.com/>

担当スタッフより

とあるベンチャーイベントの基調講演にて、ゴウさんの30分の講演を聞きました。起業家が集まるそのイベントに見当違いにも出席していた私は、TEDxSakuを運営する立場から、ビジネスではできない、非営利ボランティアだからできること、ということをお話することが私に与えられた役割だと思っていました。

ところが、ゴウさんの話は、「やりたいことをやって、ビジネスにしてしまう」という話でした。肩透かしを食らった気分でした。

この人何歳?何者?という疑問がふつふつ湧きました。まず惹かれたのが、ゴウさんのいきな大きな経歴でした。何をやっても続かなかった人が、なぜ今全国的に有名な会社を引っ張っていているのか。

ビジネスなのに、やりたいことができてしまうのはなぜなのか。飽き性のゴウさんが、なぜ今、これだけWEB業界を賑わわせているのか。ゴウさんのトークにはそのヒントが隠されているのかもしれない。(座光寺)

1989年生まれ。奈良県吉野郡大塔村 (現五條市) 出身。

幼少期を山間の過疎集落で過ごし、地方や地域社会に関心を抱く。村議会議員、司法書士だった両親に憧れ、2008年京都大学法学部に入学。

大学在学中には、鯖江市地域活性化ブランドコンテスト、松山市主催学生による政策論文、ヤンマー株式会社主催学生懸賞論文などで入賞。

2010年スウェーデン国立ストックホルム大学へ留学。北欧の「生活の豊かさ」に強く感銘を受ける。その他世界40カ国を周遊。

幼少期の経験、スウェーデンでの暮らしから、人間が人間らしく生きる「場」としての地域の重要性を痛感し、2013年総務省に入省。自治税務局企画課を経て同年8月より長野県市町村課。長野県赴任中、第一種銃猟免許(旧乙種)を取得。伝統を受け継ぐ猟師の世界へ足を踏み入れる。

担当スタッフより

田中佑典さんと2月中旬に登壇が決定してから、スタッフ共々、本番のスピーチ作りのために密に関わらせて頂いております。

とても人当たりが良い方で、笑顔が素敵と女性スタッフから評判です。そのお人柄もあり、登壇決定後は、スタッフと酒を交えて語り合ったり、Facebook上で考えをぶつけ合ったり、一緒に温泉に入ったりと、本当に色々とお付き合い頂きました。

田中さんは、オーディション後にテーマである限界集落についてもう一度、じっくり考え直したいという想いから、3月に奈良県の旧大塔村に帰郷されました。また翌週には、佐久市臼田の私の家に泊まり込みで、スタッフ8名と集中討論をしました。

この討論には主婦スタッフが幼児同伴で参加したため、とても賑やかな雰囲気ではありましたが、最後まで集中力を切らさずご自身の考えを述べ、またメモをとり続ける田中さんの姿に、ただただ頭が下がる思いでした。

限界集落はすぐそこにありますが、私達はなかなか目を向けようとしません。少しでも関心を持って、行動につなげていってもらえれば、と田中さんの熱い思いを私は感じています。では田中さんのスピーチをお楽しみに。
(平田知之)

1970年富山県出身、東北大学薬学部卒。卒業のテーマは「キラリな複素環化合物の合成研究」。卒業後、北海道留寿都農業高校で理科の講師。佐渡島羽茂自然学園で小中学生の指導員、黒姫和漢薬研究所で薬草茶の研究開発、長野県で新規就農し薬草(当帰)栽培に取り組みつつ農閑期はドラッグストアで働く。

1999年、インドに渡ってチベット語を学び、2001年、メンソイカン(チベット医学・暦法大学)に合格。

2009年、チベット医の資格を取得し帰国。「チベット医学・薬草研修センター」を設立。

2013年4月より早稲田大学・文学術院・国際教育学修士課程に進学。研究テーマは「薬草の実践研究」。

2014年より信州の上田・小諸・佐久地域の山々を舞台とした「森のくすり塾」を開塾。従来の薬剤師でもなく医師でもなく、古来、日本において活躍した探薬師を名乗り、薬草文化の復興に取り組んでいる。

著書 『僕は日本でたったひとりのチベット医になった』(径書房)2011年

ブログ チベット医学・薬草研修センター <http://tibetherb.blogspot.com>

担当スタッフより

残りの人生がもう長くないかもしれないと突然の宣告を受けた翌日、僕は小川さんに出会いました。

最初は馴染みのあるチベット医学のターミナルケアを受け、チベット医に着取って欲しいと瞬時に思い、ネット検索で小川さんを見つけました。日本では探薬師として活動をはじめた小川さんですが、チベット文化圏ではアムチと呼ばれ、敬愛されるお医者さんなんです。

詳しくは小川さんの著書『僕は日本でたったひとりのチベット医になった ヒマラヤの薬草が教えてくれたこと』(径書房)を読んでいただくとして、そんなチベット文化圏以外の外国人としては初めてのアムチが、車で15分の隣町に住んでいるとは、お先真つ暗な僕にはまさに奇跡のようでした。

翌朝、電話もせずに小川さんの家を訪ねました。電話をして、その日に会うことを断られるのが怖かったからです。2週間後、生体検査の結果が陰性と分かり、ターミナルケアの必要がなくなり、僕らはとりあえず用なしとなりました。小川さんも得体の知れぬ珍客の面倒を見なくてすむとなりホッとしたことでしょう。

雰囲気少し変わったのは、後日、小川さんがチベット医学の教科書に僕の顔写真を見つけたときでしょうか。小川さんが学んだチベット医学暦法学大学で行われたセミナーに、僕は医療人類学者として参加し、グライ・ラム法王の侍医のクリニックで研修をしていました。

それはまだ小川さんが佐久市望月で就農した頃が、旧佐久町のカインズホームの薬局で薬剤師として働いていた頃だと思えます。珍客は友人となり、小川さんはアムチとして日本社会では無力であるやせなせな、薬草の話をしてられるようになりました。

小川さんによると、ヒマラヤ山脈の3千から4千メートルに自生している薬草と似たような薬草が、ヒマラヤより北に位置する日本の千メートルあたりではよく見られるそうです。標高700メートルあたり暮らし、千メートル付近に薬草を探りに行くのが彼にとって理想の生活だそうです。ここコスモホールは標高717メートルなので、まさに探薬師が住むべき街なんだと思います。

佐久でも採薬をしていたのは、望月の忍者たちだけではありません。昭和30年代以降、製薬産業の飛躍とともに、採薬という営みが失われるまでは、人々は薬草とともに暮らしていました。薬草と人との交流が急速に失われ、農村で受け継がれてきた知恵が消えていったのです。それ以来、薬草はただの雑草のままです。

上田市別所で小川さんがはじめた森のくすり塾は、薬草のある暮らしの知恵や自然との関わり、薬草を介した人と人とのつながりを取り戻す、そんな新たな試みなのです。(澤文也)

TASTE OF COMMUNITY

出会い系クレープのはなし

佐久に住んでいても食べることができないようなスペシャルなランチをつくることにしました。こんな我がままにつきあってくださった生産者のみなさんに素敵な食材を提供していただき、調理チームと試行錯誤の末に生まれたランチを、テイスト・オブ・コミュニティと名付けました。TEDxSakuのテーマである Power of Community (コミュニティのチカラ) を5月11日に食でも味わっていただこうと、今日もみんなで準備をしています。

フリッタータとチャツネを包んだクレープもそのひとつ。かわいいヤギのいる長野牧場で収穫されたライ麦に地粉を合わせて生地をつくりました。ヤギ乳を混ぜようとも考えたのですが、5月はヤギの出産シーズン。さすがに赤ちゃんからミルクを奪うこともできず、とても濃厚な風屋とうふ店の豆乳で生地を伸ばすことにしました。

ユメセイキという地粉とフリッタータの卵は、ニホンミツバチから採れる百花蜜でも人気の鈴木茂さんに特別に譲っていただきました。鈴木さんは布施地区で、花、米、そば、小麦粉、トマト、蜂蜜、卵などを生産していますが、ほとんど出荷されることはなく、春日地区のレストランさんぞの美味しいコース料理で遭遇したり、たまに望月地区の Yushi Cafe のカウンターで直売される程度のどれも貴重な食材です。

鈴木さんが小麦粉を生産したのは、ポストハーベストと呼ばれる輸入小麦に使われる農薬が、娘さんやお孫さんを苦しめるアレルギーの原因かもしれないと思ってのことでした。鶏もアローカナやポリスブラウンなど4種類それぞれに手作りの小屋をつくり、雄鶏も混ぜることで7割ほどが有精卵だという卵を主に家族のために生産しています。最近、木炭で発電まで試みようとする鈴木さんは、コミュニティのヒーローです。

イギリス風のチャツネを提供してくれたのは、望月地区で FENBERGER HOUSE というプライベートミュージアム兼リサーチセンターを主催するロジャー・マクドナルドとその家族。ロジャーは世界的に活躍するキュレーターでもあり、彼とは20年近く振りに佐久で再会しました。

野菜やフルーツ、ハーブにスパイスを混ぜたペースト状のソース、チャツネは南アジア生まれです。ロジャーのお父さんの母国、イギリスではチャトニーと呼ばれ何世紀も前からすっかり家庭の味となり、FENBERGER HOUSE 訪問プログラムでのランチの主役です。ちょうどカレーが日本の家庭料理になったように、イギリスにも我が家の味のチャトニーがあります。FENBERGER HOUSE のチャトニーはイギリス風ながらも佐久の作物からできた、まさに佐久のチャトニーです。

クレープの仕上げには、長者原地区から全国のレストランに西洋野菜とハーブを出荷するアトリエノマドのルッコラ、セルパチコ、マスタードなど晩春のリーフを挟む予定。当日に向けて、今はまだ畑ですくすく発育中です。

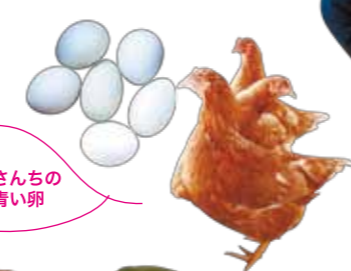
こんな選りすぐりの素晴らしい食材を生かすメニューを考え、アイデア溢れる料理をつくってくれるのは、この夏、平賀地区に maru cafe<マルカフェ> という小さなお店をオープンする柳澤夫妻です。平賀は柳澤真理さんが生まれ育った地区で、おばあさんが営んでいた薬局が素敵なレストランに生まれ変わります。真理さんは職人館という佐久を代表するそば屋で料理の基礎を学び、アメリカ西海岸育ちの柳澤零さんは、NHKの番組でも有名なアリス・ウォータースのシェ・パニースで修行をしたのち、満を持してアトリエノマドの畑でふたりは出会いました。

maru cafe<マルカフェ> に併設される平賀フードラボでは、地元の伝統食材や世界各地の調理法をリサーチし、新たな食を考える、食文化の発信地になる予定です。この秋、柳澤夫妻には TEDxSaku や maru cafe<マルカフェ> と同じ年になる赤ちゃんが誕生します。みんなにとって 2014年はとても思い出深い一年になりそうです。ボナベティ。

ランチ・キュレーター 澤文也



長野牧場のライ麦



鈴木茂さんちの鶏の青い卵



望月の鈴木茂さんの地粉



アトリエノマドの晩春のリーフ

Taste of Community



マルカフェの柳澤夫妻



マルカフェ



FENBERGER HOUSE のチャトニー



ONIGIRI



- ① 鈴木茂さんの玄米ミルククイーン
- ② のらくら農場の五分づき米
- ③ がんも農場の五郎兵衛米コシヒカリ
- ④ 高地清美さんの雑穀入り事務局米

地元

握ってくれます!

木もれび

DRINKS

Hot

憧れのブラウズマンたちも集う Yushi Cafe の YUSHI CAFE クレープと相性抜群の浅煎り天保堂珈琲と深煎り 36 珈琲

TEDxSaku スピーカーで採薬師の小川康さんがチベット医になる前に働いていた黒姫和漢薬研究所のえんめい茶

アラビア半島イエメンにある伝統的な住宅の最上階にある親しいひとたちが集う部屋を意味するマフラージのミントティーとチャイ

イギリスで人生の半分を過ごしたランチ・キュレーターオススメのミルクがとっても合う庶民の紅茶 PG Tips Strong

TEDxSaku スピーカー高地清美さんのおにぎりにも合う地元 6 種類の焙煎雑穀茶

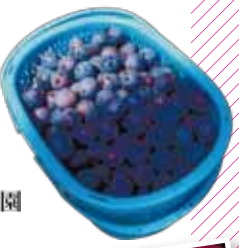


Cold

佐久といえばブルー！川上ブルーランドのブルー果汁入り飲料

標高 700 ~ 800m の御牧ヶ原台地にある宮嶋林檎園のりんご本来の味を大切にしたりんごジュース

八ヶ岳山麓にある蔵内の深井戸より汲み上げた軟水なので口当たりも柔らかな黒澤酒造の信州八千穂の湧水



長野牧場のライ麦
Yukiito さんの干しリンゴ
とろの木さんの里生のクルミ
葉生里さんの干し柿

吉田農園のゴマ
のらくら農場のドライトマト
須田りんご園のドライりんご
風屋とうふ店の信州大豆の豆乳
黒澤酒造の酒粕
上田の有機農家丹野農園の地米粉
志保青木さんが育てた
矢野製菓さんが仕込んだ玄米の麦角



上田の神農 五郎兵衛米の米粉



Ohana Farm 5/11 に向けて 2 月から種まきが始まりました

About TED

TED is a nonprofit organization devoted to Ideas Worth Spreading. Started as a conference in California 26 years ago, TED has grown to support those world-changing ideas with many initiatives.

At a TED conference, the world's leading thinkers and doers are asked to give the talk of their lives in 18 minutes or less. TED speakers have included Roger Ebert, Sheryl Sandberg, Bill Gates, Elizabeth Gilbert, Benoit Mandelbrot, Philippe Starck, Ngozi Okonjo-Iweala, Brian Greene, Isabel Allende and former UK Prime Minister Gordon Brown. Three major TED events are held each year: The TED Conference takes place every spring in Vancouver, Canada, simultaneous with TEDActive, in Whistler, BC; and the TEDGlobal Conference takes place each summer in Edinburgh, Scotland.

On TED.com, talks from TED conferences are shared with the world for free as TED Talks videos. A new TED Talk is posted every weekday. Through the Open Translation Project, TED Talks are subtitled by volunteers worldwide into more than 90 languages. Through our distribution networks, TED Talks are shared on TV, radio, Netflix and many websites.

The TEDx initiative grants free licenses to people around the world to organize TED-style events in their communities with TED Talks and live speakers. More than 5,000 TEDx events have been held, and selected talks from these events are also turned into TED Talks videos.

The annual TED Prize grants \$1 million to an exceptional individual with a wish to change the world. The TED Fellows program helps world-changing innovators from around the globe to become part of the TED community and, with its help, amplify the impact of their remarkable projects and activities. TED-Ed creates short video lessons by pairing master teachers with animators, for use in classroom instruction or independent learning.

About TEDx, x = independently organized event

In the spirit of ideas worth spreading, TEDx is a program of local, self-organized events that bring people together to share a TED-like experience. At a TEDx event, TEDTalks video and live speakers combine to spark deep discussion and connection in a small group. These local, self-organized events are branded TEDx, where x = independently organized TED event. The TED Conference provides general guidance for the TEDx program, but individual TEDx events are self-organized. (Subject to certain rules and regulations.)

Enjoy expanding your knowledge

In TEDxSaku which will be held on May 11th, 2014, speakers who are selected share thier ideas with words, materials, pictures, gestures and passion. TEDxSaku is aiming to make this event become a place to share an abundance of new ideas and surprising discoveries that are worth spreading to the world from Saku.

Enjoy connecting with others

TEDxSaku sends out ideas related to local lives and gives chances to create deep connections through stimulating ideas from all over the world. TEDxSaku shares various ideas which inspire people in Saku to have a global views to realize Saku is one of the many cities in the world and that each one of us is part of the global community.

In the spirit of ideas worth spreading,
TEDxSaku is officially licenced by non
profit organization TED in August, 2013
to bring people together and share ideas.

TED について

Technology + Entertainment + Design = TED
TED (<http://www.ted.com/>) とは、「Ideas worth spreading (広める価値のあるアイデア)」という考え方のもとにプレゼンテーションイベントを組織する非営利団体です。1984年アメリカから始まったイベントでは、先駆的な実践者や研究者などが登壇し、18分以内でインパクトのある方法でアイデアを発表します。現在では有名・無名問わず、様々なスピーカーが集い、世界に影響力を持つイベントとして注目されています。「TEDTalks」と呼ばれるプレゼンテーションの数々は、TED.com で無料公開されている他、日本ではスーパープレゼンテーションという番組でTV放送されています。

TEDx について

TEDx は、TED の「Ideas worth spreading (広める価値のあるアイデア)」という精神を共有するために世界各地で生まれているコミュニティです。x=independently organized event の意味であり、現在までに日本国内でも TEDxTokyo、TEDxSendai、TEDxKyoto、TEDxFukuoka、TEDxTsukuba、TEDxSakurajima などに加え、TEDxTodai などの大学ベースの TEDx も多く実現しています。

TEDxSaku について

長野県初の TEDx
TEDxSaku は、「Ideas worth spreading (広める価値のあるアイデア)」を共有しようという目的で運営されている非営利組織 TED から、2013年8月に正式なライセンスを受けて設立されました。

「知る」ことは、もっと自由で、もっと楽しい

TEDxSaku では、選ばれた数名の発表者が、言葉で、道具で、画像で、しぐさで、熱意で、それぞれのアイデアを共有します。TEDxSaku を、世界に誇る「Ideas worth spreading」に触れることで、沢山の驚きや発見が得られる場にすることを目指しています。

つながることは、もっと面白い

TEDxSaku は、佐久の地域生活に寄り添ったアイデアを発信すると同時に、この地域を刺激するアイデアを世界から取り入れ、アイデアを通じて、この地により深い繋がりを育むきっかけを提供すること、また、様々なアイデアに触れることで、より広い世界に目を向け、世界の中の佐久、70億人の中の1人を実感するきっかけを提供することを目的としています。





TEDx Saku
x = independently organized TED event

"We are not to host this TEDx event to boast of ourselves to those who work in the urban cities.
All we do is stand here as we are, thanking for all that have nourished us.
Right here, being ourselves as usual. That's good enough, and that is good."
(Translation by Masahiro Zakoji)

今年のテーマである「Power of Community」ロゴ兼メインビジュアルを作らせてもらいました。

大きな山に囲まれてその恩恵を受けながら生活をしている、人・もの、ここから育まれた文化や、人の力では決して作り出す事のできない自然の美しさや強さ...そういったものの中で私たちは生活をし、そしてTEDxSakuを育てています。

TEDxSakuは、1人の大きな影響力で作られているものでも、スタッフやスピーカーだけで作られているものでもありません。この土地・人・文化があってそうした大きな流れの中で育まれているのだと思っています。

もともと、私はTEDというものに「強い・男性的・成功者」というイメージを強く持っていました。佐久は、TEDxで初めての日本の地方都市という事で気負っていた部分もあるのだと思います。地方だからって馬鹿にされたくないとか、主婦が運営してるからって

馬鹿にされたくないとか、そういう劣等感のようなものの中には、私の持つものすごく個人的な劣等感も含まれていたのだと思います。会議でも度々出ていた事ですがどうしても「地方 vs 東京」「主婦 vs 働いている人」みたいな、そんな思いが根底にあるのではないかと...

というわけで、キービジュアルどうする？という話になった時に、私は3つの案を持って行きました。

1つめは力強く地方のパワーを感じさせるようなビジュアル。2つめは佐久という地方だけれどスマートで凛としているというイメージのビジュアル。3つめは今回のものの元になったビジュアル。こんな感じでどうかなー、とオーガナイザーである座光寺家のリビングで見せた時、その場にいた全員が瞬時に3つめのものを指して「これいいね!」と言ったのです。

正直に言うと、私はアーティストではないし、イラストも職業にしている訳ではないし、その出来はあま

りにも土臭くて手作り感があふれ過ぎていて、「強い・男性的・成功者」というイメージから遠いと思っていたので、この3つめの案は遊びで作って持って行ったようなものでした。「他にないね!」と言われた時、私の中で大きな切り替わりがあったのだと思います。この地でTEDxをする事は、都会に、働いている人に対して自分を誇示するためのものではない。自分はこの地に、自分の姿のまま立って、共に自分たちを育てられるモノに感謝をして、いつも通りにしていればいい。それでいい。それがいい。

「いいものになりたい」という思いは今でも強く持っています。

でも「すごいものになくは」という思いは今あまりありません。

自分たちではじめた事を、最後まで自分たちらしく楽しみたいと思っています!

(江村康子)



TEDx Saku vs U-12
x = independently organized TED event



Q → Rui

はじめに、皆さんの自己紹介をお願いします。
 長野市七二会出身。29歳乙女座O型。2歳と3歳の子育てをしている主婦です。小学生の時は活発でいつも脳天気な笑っている子でした。文章を書くのが好きで、童話を書いたり、詩を書いたりしてました。
 中学から佐久長聖に進学し、高校卒業まで佐久で寮生活。高校時代に砂漠に憧れを持ち、農学部を目指しましたが、影響力のあるプロジェクトをするには必ずお金の流れが必要だと考えるようになり、経済を勉強しようと思って大学に行きました。今から考えると、あのころから何かプロジェクトをしたかったんですね。社会貢献につながるような。結局大学進学後、経済の勉強にあまり魅力を感じられず、3年の進路選択時にやはり農学部を目指しました。しかし力不足でありえず断念。成績が悪くても入れた医学部健康科学看護学科(現・健康総合科学科)というところに進学しました。
 そのころの私のキーワードは「環境」というのが、結果的には私が考えていた「環境」というのは、「人が幸せだと感じる環境」という意味だったように思います。人間の幸福感ということを探るためには、健康科学看護学科は実は私にぴったりの場所でした。大学を卒業してすぐ夫と結婚。夫が佐久で働いていたことから、縁があってまた佐久に住むことになりました。すぐに長男を授かり、年住んだ後夫の留学についてタイのバンコクに1年間滞在し、その間第二子を授かりました。2012年に佐久に戻り、今に至ります。

TEDxSakuを立ち上げた理由は?
 直接的なきっかけは、夫が仕事をセミナーを行うにあたり、アフィリエイトを相談されたことです。TEDトークのインパクトの大きさがすぐに頭に浮かんだ私は、是非それを活かしたイベントにしたいと思つたと提案したところから、夫と共にルールや申請方法について調べ、立ち上げに至りました。潜在的な理由は3つあります。とても自分中心な理由で恐縮です。
 1つは幸か不幸か時代に入るとのつながりに救われた経験から、自分の心の健康や幸福感には人とのつながりが不可欠だと感じていることです。折角自分が住んでいる場所なので、この地でもっと深く、いろいろな思想やアイデアを通じて人とつながりたいと思っていました。
 2つ目は、自然豊かな佐久の地で子どもと過ごせることはとても幸せなことなのですが、主婦として生活している私にとって、知的欲求を満たす場所がとて少なかったことです。心の栄養になるような知的ワクワクがもっとほしいと感じていました。
 3つ目は、自分が6年間中学校時代を過ごした時に、とても風通しの悪さを感じてきたことです。
 勉強することはとても楽しかったです。数学を勉強して、社会を勉強して、化学を勉強して、現代文を勉強して、それらがふつと繋がる瞬間があって、その時に見えなかった世界というのが本当はリアルな社会や社会を動かす大人たちと繋がるきっかけになるはずだったのに、なにに社会に求められているのさという疑問の楽しさを感じていました。その現実には私にとってとても苦しい物でした。自分が日々向き合っているものが社会や世界とどうつながっているのかがなかなか感じられる場がなかったんです。
 残念ながら、都会の中高生に比べて佐久の中高生は、社会をリアルに感じられる場所がやはり少なかつたという現実があったのだと感じています。私が感じていたような苦しさや、今の佐久の中高生には味わわせないというか、少なくとも選択肢としての社会や世界や大人をものごとと感じられるような場所を提供することができたら素晴らしいなと思っています。
TEDxSakuを立ち上げた良かったことは?
 TEDxSakuという看板を掲げただけで、いろんな人と会うことができたことです。多分TEDxSakuを立ち上げなかったらきつと深く関わることがなかったであろう人たちが、スタッフやパートナーさん、スピーカーとして関わってくれたことで、プライベートのつながりも広がって、佐久に住むことがぐんと楽しくなりました。毎日と

ても刺激的で日々発見や学びがあります。**主婦がTEDxを立ち上げたことについて、自分ではどう思いますか?**
 主婦が、とか、女性が、とかいうことを取り立てて主張することはできるだけ避けたらいいと思っています。男性も女性も、社長も、パート従業員も主婦も、誰だっけ何かをする権利はあるし、何かをする可能性を持っている。その一つの例として、主婦という一点を加えられたことは良かったと思つています。
丸顔でトクしたことは?
 警戒されない。お菓子とかやたらもらえる。(丸顔を維持するための協力)
どのメーカーのマヨネーズが好き?
 マヨネーズは嫌い。
TEDxやって一番笑っちゃった事は?
 子どもたち同士が勝手にどんでん仲良くなっていること。ミーティングで、スタッフの子と会えるようになって言つと、わーいって喜んでます。
5年後何してると思う?
 読書。
明日の夕飯は何にする?
 お弁当のおかずは何が好き? おにぎり。
「るいて、どんな意味があるの?」
 人類のるいだよ。
佐久の好きな場所を教えてください!
 TEDxSakuを通じて沢山友達ができた。友達がいるところは全部好き。
得意なスポーツはなんですか?
 バレーボール。小学生の時バレーボールでしたサーブが得意(チビだったのでむしろサーブしか得意じゃない)。小学5年の時に勉強しようと思って、バレー部をやめると監督に話をした時に言われたヒトコトが今でも忘れられません。「何かをやるためには何かを諦めるやつは、なんだってやりきれないんだぞ」悔しくて、まっしるい雪の上につぶして泣いた。とりあえずやると決めたくことは、絶対に監督に笑われないように、全力でやるうと心に決めた。
小さい頃、何かにハマってた?
 バッタ頃。
どんなの弱点をここでこそ教えてあげて!
 バエリや作れるのに味噌汁が作れない。いつも何處くらに見られる?
このあいだ中学生ですとか言われました。得意教科は何だった?



よからぬことを考えて、階段にけつまつくことしょつちゅう。(上前知洋)
会社時代、得意先の電話に「はい」と「ええ」を繰り返して打っていたら、いつからか「へえ」になっていた。御用聞きか。(石井瑞穂)
 イギリスの大学から上智大学に1年間留学していたときのこと。バイトで広尾の神戸屋キッチンで、ケーキ用のスポンジを一日に145個焼いていました。ショップの奥にあるキッチンで作業をしながら、ショップの「ありがとございます!」に合わせて、キッチンからも「ありがとございます!」と声を出します。慣れてくると作業に集中しても、反射的に声が出るようになるものです。バイトの帰り、ラーメン屋でひとり静かに麺をすすっていた僕は、反射的にラーメン屋の店員にもつれ「ありがとございます!」と大きな声でカウンターから見知らぬ客を見送っていました。(澤文也)
冬休み、スキー教室に入った小学4年生の私。ぜいぜい息をきらしていたら「しんどいか。男なら頑張れ」と言われた。私の失敗ではないと信じている。(座光寺あづみ)
 ついこの前、にぼしと間違えて輪ゴムを噛み締めた。(樋口千春)
 小学生の頃、先生達を困らせることが自分の中での大冒険だった。怒られすぎて、それこそ一生分くらい怒られました。なんでそんなことしたのか、思い出せないけど恥ずかしい黒歴史です。(篠原憲文)
 大好きなカレーが辛すぎて、気を失いました。スリランカ人が好んで食べるカレーがインドのヴィンダルーより辛いと知ったのは、意識が戻ってからでした。それは古都キャンティの老舗、クイーンズホテルのランチで食べたカレー。それまで食べてた場所では、外国人用にマイルドな辛さにしてくれていたんだと思います。お腹がすいていたので、大きめの最初の一口を食べた瞬間、食道を通過するカレーを全身で感じ、縮んだ胃が喉に向かって上がって来るように思えました。眉間が痛くなり、次第に目の前が暗くなると、みんなの笑い声が

フェードアウトしていきました。気が付くと、僕は椅子に寝かされ、ウエイター3人がメニューで顔を肩いでくれていました。本場のカレー、キケンです。(澤文也)
ある夜、夫が好きなじやがいの甘辛煮を作ろうとして、砂糖をたっぷり入れたら、もろりとした。全然甘くないしよっぱ煮になった。(浅見洋子)
 中学生の時、田口峠愛好の仲間と自転車で標高の低い群馬県側に向かっていた時に勢いで下っていった(校則違反ですが時効)、下仁田で引き返したのだが、内山峠の登りがきつすぎて、これは俺たちにはムリだと全員が青ざめた。(半田勇二)
病院勤務時代、翌日の新年会用のタクシー11台を手配し友人とボーリングへ。何をどう言い間違えたのか直後にタクシー11台が病院のロータリーに縦列。院内放送で呼び出されたあげく、病院からボーリング場に電話がかかってきた。(浅沼瑞穂)
 大学時代、やっと決まった出版社の内定者懇親会で、社長の隣に座った。酒つぎは嫌だなと思つて、次の日に内定を蹴った。あれは失敗だったかもしれない。(座光寺あづみ)
結構長い間、子持ち昆布を見るたびに「昆布の胞子ってデカイな」と思っていました。(樋口千春)
 通訳の仕事で、あまりの緊張にミスを連発した上に、とどめに「項目」と言おうとして「ごうもん」と言い間違えてしまい、そのあとしばらく思い出しては頭を抱えてました。言うまでもなくその時のクライアアントさんからの依頼は二度と来ませんでした。(石和ゆり)
病院勤務時代、双子の姉がカナダ人の旦那さんを連れて受診に来たときのこと。翌日師長さんから「浅沼さん、外国人の彼氏がいたのね。」とからかわれ、「あれは姉です」と返答したら「えっお姉さん?どうみても外国人に見えなけりゃ?」。(浅沼瑞穂)
蜜だと思つて松や二紙めた。(江村康子)
中央線の狹窪に住んでた頃、家に帰るつも

りか西船橋にいた。折り返しに乗って、気が付いたら三鷹だった。かれこれ2往復くらいしても故障で降りられず、終電で三鷹から歩いて帰った。次の日、当時の部長から「越後湯沢にて会社に遅れた」と電話があった(新幹線で寝過ごしたらしい)「自分だけじゃなくと安心した。(石井瑞穂)
コンビニでバイトをしていたとき、お客さんに「消毒液どこですか?」と聞かれたのに、ショートケーキを持って行って副店長に睨まれました。(樋口千春)
中学校の頃は学校までの道りを自転車で通っていました。中学3年になったある日、中学校(自宅)のおむね下り道(までを両手放して帰れないモノ)かと思案し、試すも何度となく転倒や車との接触を経験。危険とは分かりつつもどうしても成し遂げたく、諦めずに取り組んで3ヶ月。生傷と制服をダメにしても、何とか成功した清々しい思い出があります。(篠原憲文)
 うちの妹は、「生まれてこの方、ガムを1度も出したことがない、全て飲み込んでいた」と衝撃のカミングアウトをした。聞いたら弟もだった。(石井瑞穂)
シャンプーや洗剤を詰め替えるとき、いまだに毎回「うっ」とこぼしてしまいます。大人になるって難しい。(樋口千春)
就職試験の時、面接日を間違え、ずーっと待合室で名前を呼ばれるのを待っていたことが。待ち続けること約2時間。ようやく間違いに気が付き、翌日出直しました。当然、落っこちました。(上前知洋)
イライラして、もういい加減にして!と子どもに怒鳴つて数分後、状況を見計らって「ママ、怒ってごめんねって言って」と笑顔で息子に諭される時。毎回、失敗したと思う。(座光寺あづみ)
 小学生の頃、魔女にならたくて、植物や動物に話しかけたり、月に気を送ったりしていました。(樋口千春)
自衛隊員だった頃、隊長の精神教育でつい居眠りをしてしまい、眠たいなら寝ると雨降る中グラウンドで寝かされた。自衛隊式廊下に立つてるだね。(浅見洋子)

地理。地図を眺めるのが好きです。小学生の時、語呂合わせで世界の首都を覚えてました。毛にはナイロン(ケニアの首都はナイロビ)、アルジェリアには石油がアルジェ(アルジェリアの首都はアルジェ)、ナイジェリアにも石油があるジャーン(ナイジェリアの首都は阿布ジャーン)
オスメリフレッシュ方法は?
 遠くに出かける。
滑り台派?ブランコ派?
 通学路の途中にあったマムシ山という長い坂道を、タンポールの切れ端でものすごいスピードで滑るのが面白かった。あえて言えば滑り台?
無人島に持って行くとしたら何? うさわ。
米・麵・パン一番好きな主食は?
 おやき。
ここに住んでよかったこと教えてください
 子どもがのびのび遊べること。(パンコクに住んでた時夜泣きが激しかったのに、佐久に戻った途端にヒタツと止んだ)
現実にはムリそうだけど、本当はやってみたいTEDxのテーマは?
 男女。数字。
「前世の業、または今生の課題」があるとするならば、皆さんの業とは?
 えっ、カルマってこと?なんだろう。本当はものを書く人になりたいといつも思っています...。
イヤホンして大声で歌いながら家事してたら、窓が開けっ放しだったことに気がきました。もしもいるクローバーZの佐々木彩夏さんのソロ曲「だつてあーりんなんだもん」を歌っているときでした。(樋口千春)
宅配の集荷を頼んだ電話口で「えくすすか」と聞かれ「はちです」と回答。(江村康子)
決して跳び箱が苦手な訳ではなく、むしろ得意な方だった。跳び箱の体育の授業中、どうやらその時は魔が差したのだと思う。跳んだ瞬間手を放すのを忘れた。結果、指先から手首に向かって大変なことになってしまい、即病院送りになった。(北村洋子)
炭焼きの石釜で鮎の焼きたてを焼いたら、あつという間に真っ黒焦げ。1200度の焼き加減は想像を遥かに越えてアートの鮎の焼きたて化した。(浅見洋子)
 水を入れずに炊飯器のスイッチを押ししてしまい、数十分後ホッパカホカの生米と対面。触るとじんわりと温かさが伝わるのが心地良く、「生米風呂とかアリかも...」などと妄想しながらしばらく生米と戯れていました。(樋口千春)
ドイツのKEVAに迷い込んでしまい、ドイツ語わからんし出口わからんし近くにあってドアを開けて何も無い廊下を通り抜けたらしたら警報機が大音量で鳴って捕まっていた。(ドイツ人には笑われた)(江村康子)
今日やたらパンツずれるな!。太ったのかな?」と思ったらパンツ裏返しに覆いてました。あの形、ちゃんと意味あるんですね。(樋口千春)
就職活動の時、履歴書に必死のアピールで「スキー部では女子主将として部員をまとめて云々...」と書いたつもりが、「女将」と書いていたらしく、面接官がニヤニヤしながら「君、女将(おかみ)やってたんだ」とじつこく突っ込んできた。でも内定をめでたくいただきました。ありがとございます。(石和ゆり)
「鯛焼きいって頂戴」と言ったら「いって出て来て、梱包されてるし後ろに列でできて断れず買った...」(江村康子)

partners

partners



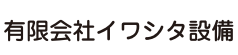
team partners Spectrum design office  Emragraph 

technical partners Live Stream powered by IIJ   Future Stage Project

stage partners    井出建設興業株式会社 豊嶋秀樹 

PR   株式会社佐久印刷所  AIC 

in-kind partners  NaGA INTERNATIONAL    
 東信州 農の匠の王手箱  cre8.  おぎのや 

 有限会社エム・エム・シー  maruni 

  小池会計事務所  信州消毒株式会社 有限会社荒船開発

 resterra   

小海町開発公社    株式会社 岳南マネジメントプラットフォーム

individual partners 宮田佳典 由井和也 藤井博之 新田壮平

public viewing     

supporting partners     一般財団法人 佐久市文化事業団
 長野県教育委員会  佐久市教育委員会  小海町教育委員会  佐久大学
 佐久商工会議所  小海町開発公社

代表 座光寺い

staff

浅沼瑞穂 浅見満 浅見洋子 有路憲一 飯島健 石井瑞穂 石和川 岩田美紀
上前知洋 江村康子 萩原智子 北澤淳 北村洋子 倉根明德 小池純子 小向佳乃
澤文也 篠原憲文 Shino Christopher 高橋栄美 高橋浩平 田中友崇 中村裕美
西浦潤 半田勇二 樋口千春 平田知え 山中琢磨 由井賢 吉田達夫

● TEDxSaku 東の間展覧会

下平千夏 「β - 余剰の力」
CHINATSUSHIMODAIRA

様々な分子のクラスター構造である強固な正二十面体が、エネルギーの放散のごとく、『美しく瓦解』する状態を視覚化することを試みたのが本作品です。



制作年：2013 素材：畜舎の廃材、金具